

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

「年度当初に新しいクラスを学級集団としてまとめるため、どのような声掛けや指導を行っていますか」

▶多くの生徒に話しかけ、教員との信頼関係を作る

1年生の場合は、生徒同士がなかなか打ち解けられないため、教員から積極的に話しかけ、人間関係を構築するようにしています。

1年生は生活のリズムや新しい環境に慣れることが第一です。どんな話題でもいいのでとにかく個々に話しかけるようにしています。

生徒に簡単な自己紹介文を書かせ、学級通信で紹介しています。また、教員と生徒の関係を構築するために、新学期の早い時期に簡単な個人面談を行っています。

▶クラス内の交友関係を広げる

入学直後の1年生は、お互いに緊張しているので、緊張感を持続しながらも、生徒たちが教室に入っていけるようにすることが大切。クラス内にいくつかのグループができるが、それはあえて解体して、いろいろな生徒と関わるように働きかけている。

本校は部活動加入率が高いこともあり、部活動別のクラス編成をしています。そのため、1年生のはじめから比較的早期にクラスの和を作ることができます。

1年生の最初に、校外でオリエンテーション合宿を行っています。そこで仲間作りをメインにいろいろな企画(自己PRの1分間スピーチやグループを作り議論させ、それを代表者が発表など)をしています。

1年生には、各自の目標を書かせ、全体にわかるように掲示している。自己紹介(ニックネームや趣味など)を書かせるのも効果がある。

新2年生には、あえて新しい友人を作るよう指導しています。固定した生徒同士では考え方も固定しがちです。勉強やクラブでも多くの友達と切磋琢磨するよう指導しています。新3年生はクラス替えがありませんが、文系・理系に分かれてもいろいろな人の意見を吸収するように

伝えていきます。

LHR等で、小グループに分かれて意見交換する時間を設けることで、生徒同士が話すきっかけを作っている。

▶リーダーを中心にクラスを引っ張る

本校は、学校祭が5月中旬にあり、学校祭の準備の中で、クラス作りが行われている。クラスのリーダーとして、ルーム委員、体育委員、学校祭準備委員がおり、それぞれの立場からクラスを引っ張っている。

2、3年生の場合は、新学期が始まる前からクラスのリーダーになれそうな生徒を探しておき、HR活動でその生徒に意見を聞いたり、発言させたりして、リーダーにしていきます。

1、2年生には、1年間で自分が活躍できる場面を作りたいと投げかけます。同時に、自分自身の進路について考える場面を身近なところから作るように話し、何かをつかんだ生徒から具体化に向けて進ませるようにします。その上で、その生徒の意識や行動が全体に波及していくような場面を作るようにしています。

▶目標を共有し、学級集団としての意識を高める

毎年4月には新クラスの役員(委員)を決め、クラス目標を決めさせます。例えば、「資格を3つ取得する」「無遅刻、無欠席」などです。クラス全員が目標にできるような内容にします。それを踏まえて、個々の生徒に「今年度の目標」を決めさせます。その上で、個人面談を行い、生徒のやる気を確認します。

新3年生には、学年集会で、進路を決めることは個人の活動ではなく、全員揃って取り組むことが大学受験を乗り切る秘訣であることを伝えている。その上で、各クラスで「受験は団体戦」という雰囲気生まれるような環境作りに取り組んでいる。日々の清掃、部活動、行事、授業等基本的な日常の活動の延長上に大学受験があることを強調し、学校生活全体の意識を高めている。